



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.1417 2024年9月9日

ARIBの動き

SET EXPO 2024概要報告

ブラジルテレビ放送技術協会（SET）が主催する中南米最大級の放送機器展「SET EXPO 2024」が8月19日から22日までブラジル・サンパウロ市で開催されました。

（ARIB事務局からは瀧口担当部長、小島主任研究員が参加）

1. 開催期間

カンファレンス : 2024年8月19日(月)～22日(木)(4日間) 9時～18時
展示会 : 2024年8月20日(火)～22日(木)(3日間) 10時～20時
(最終日は18時まで)

2. 開催場所

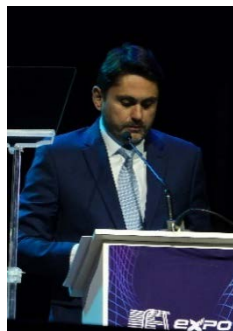
ブラジル サンパウロ市アニェンビ地区コンベンションセンター (Distrito Anhembi)

3. 開会式の概要

開会式は、8月20日(火)9時から開始されました。ブラジル国歌斉唱、SET会長のカルロス・フィニ氏による開会挨拶、ブラジル通信大臣のジュセリーノ・フィーリョ氏による挨拶及び総務省総務審議官の今川拓郎氏によるブラジルとのこれまでの友好関係についての講演がありました。また、米国映画テレビ技術者協会(SMPTE)会長のレナード・ジェンキンス氏から、「放送業界は非常に厳しい状況だが、包括的革新と目的を伴う転換が重要」という趣旨の講演がありました。



SET
フィニ氏



ブラジル通信省
フィーリョ氏



総務省
今川氏



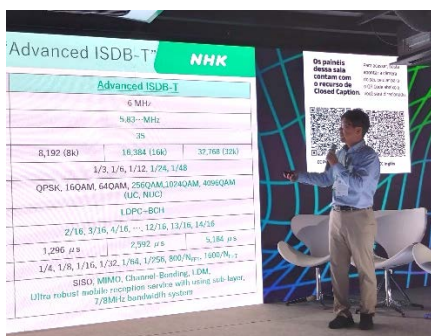
SMPTE
ジェンキンス氏

4. カンファレンスの概要

ブラジルの次世代地上デジタルテレビジョン放送 TV 3.0、革新技術、ビジネス等について講演や議論が行われ、いずれの会場でもポルトガル語と英語の同時通訳がありました。

初日のセッションでは、AI が普及する世の中でのジャーナリスト、番組制作の立場で、各業界の専門家4名による講演が行われました。日本からは NHK 放送技術研究所チーフリードの神原浩平氏が”AI Studies and its application of NHK STRL”というタイトルで NHK での AI を活用した取り組みについて講演を行い、AI 普及に伴う偽情報(Fake News)対策についての質疑などが行われました。

カンファレンス最終日の「SET 放送技術国際ジャーナル」セッションでは、DiBEG 次世代放送検討国対応タスクフォース主任の神原浩平氏（NHK）が技研公開 2024 で展示した Advanced ISDB-T の拡張機能（マルチレイヤー符号化及びサブレイヤーを活用した堅牢な移動体受信）について発表を行いました。



NHK 神原氏による講演の様子

5. 日本パビリオン、ARIB/DiBEG ブースの概要

総務省が設営した日本パビリオンにおいて、ARIB/DiBEG のほか4社(NHK、NEC、JTEC、日立国際電気)が出展しました。

ARIB/DiBEG は、マッケンジー大学と共同で物理層に次世代の日本方式、トランスポート層に Route/Dash 形式を適用した次世代地上デジタル放送の送受信システムの動態展示を行いました。また、NHK より物理層及び多重層の専門家に参加していただき、説明を行いました。

4社の展示としては、NHK が日本の地上デジタルテレビジョン放送高度化技術及び技研公開で展示した放送の将来技術に関する最新の研究開発についてパネルとビデオで紹介、NEC が VVC リアルタイム符号化器／復号器の技術展示及びブラジル TV3.0 室内実験対応状況のパネル説明、JTEC が EWBS と CAP(Common Alerting Protocol)の連携による総合防災 ICT システムのパネル、デモ及びビデオ展示、日立国際電気が地上デジタルTV用マイクロ波送受信機及び ISDB-T 送信機の静態展示を行いました。

6. SBTVD フォーラムとのミーティング

8月21日に SBTVD フォーラム、総務省放送技術課技術企画官の渡邊修宏氏及び DiBEG メンバーで、TV3.0に関するスケジュール、屋内・野外実験の結果及び今後の DiBEG との連携について意見交換を行いました。

TV3.0 のスケジュールとしては、年内にブラジル通信省の検討委員会にて決定される予定であり、2025 年 12 月までに試験放送を開始することを確認しました。

実験結果としては、屋内においては日本方式と ATSC の差はなく、屋外においては同一チャンネルの干渉試験について、ATSC の TX ID (送信所の局番号) を活用した方式が優れていたこと、基本信号構造について ATSC の採用する LDM(Layered Division Multiplexing)の方が日本方式の FDM(Frequency Division Multiplexing)より優れていたとの説明がありました。

今後の DiBEG との連携については、DiBEG 側から物理層に日本方式が推奨されなかったが、今後も TV3.0 の支援を継続したいことを意思表示し、映像符号化と音声符号化のブラジル仕様は日本の次世代高度化方式と共通仕様のため、技術的経験を活かして支援したい意向を伝えて、了解を得ました。



ミーティングの様子



参加者

(左より 4 人目から右へ向かって高田議長、渡邊技術企画官、アカミネ教授、ファウスト議長)

日中韓情報通信標準化会議IMT WG第71回会合概要報告

1. 会合の概要

本会合は、日中韓 3ヶ国の標準化機関 (SDO: Standards Development Organization) における ITU、APT、3GPP 等の IMT (International Mobile Telecommunications) 国際標準化に対する取り組みに関する情報・意見交換を行うと共に、ITU-R SG5 Working Party 5D (WP 5D) 会合等の国際会合向けの共同寄与文書作成を行うことを目的としており、年 3 回開催されています。

日程 : 2024 年 8 月 27 日 (火)、28 日 (水)

場所 : 韓国・仁川

出席者 : 各国 SDO のメンバーとして、CCSA (中国) から 14 名、TTA (韓国) から 16 名、ARIB から 10 名(事務局からは佐藤(拓)担当部長、金本主任研究員)が参加

2. 主要結果

- (1) 前回会合以降実施された WP 5D 第 46 回会合、APT WRC-27 第 1 回準備会合及び 3GPP 会合の結果を共有し、今後の検討課題について意識合わせを行いました。
- (2) 2024 年 10 月 3 日から開催予定の WP 5D 第 47 回会合に向け、各国の準備状況についての情報共有及び意識合わせを行い、継続検討項目、作業内容を特定しました。

- (3) IMT-2030 無線インターフェース勧告作成の主要課題である技術性能要求条件 (Technical Performance Requirements : TPR) の策定に向け、特にエネルギー効率、位置精度、XR、遅延、AI 及びセンシングについて技術性能要件の必要性、定義方法等の意見交換を実施しました。
- (4) IMT-2030 無線インターフェース勧告作成のもう一つの主要課題である評価方法の策定に向けて、利用シナリオ及び地理的環境を組み合わせた評価用テスト環境、評価方法等が定義される新報告 ITU-R M.[IMT-2030. Eval]の章構成及び作成スケジュール等について意見交換を実施し、引き続き共同寄書化の可能性について議論を継続することとなりました。
- (5) WRC-27 議題 1.7 を含む、地上 IMT に関連する各議題の共用・両立性検討のために地上 IMT の技術面・運用面の特性をまとめた作業文書に関して、章構成、保護基準の時間率及びモンテカルロシミュレーションに用いる干渉確率の考え方等について議論を行い、引き続き意見交換を継続することとなりました。
- (6) WRC-27 議題 1.13 に設定された地上系 IMT 端末と衛星との直接通信における地上系 IMT システムの共用・両立性及び保護条件の検討の進め方に関する意見交換を実施しました。

3. 次回会合のスケジュール

次回は 2025 年 1 月に中国・福州において Web 会議併用での開催を予定しています。

ARIB 内会合 (9 月 9 日～9 月 13 日) 予定

- 9 月 11 日 (水) : デジタル放送システム開発部会
地上放送高度化方式検討 TG Web 会議併用
- 9 月 11 日 (水) : 第 320 回業務委員会 Web 会議併用

国際会合 (9 月 9 日～9 月 13 日) 予定

- 9 月 9 日 (月) ～13 日 (金) : APT AWG-33 (バンコク) Web 会議併用
- 9 月 9 日 (月) ～13 日 (金) : 3GPP TSG#105 メルボルン

総務省などからのお知らせ

衛星通信システム委員会報告 (案) に対する意見募集

- 「非静止衛星を利用する移動衛星通信システムの技術的条件」のうち
「衛星コンステレーションによる携帯電話向け 2GHz 帯
非静止衛星通信システムの技術的条件」—

【令和 6 年 9 月 2 日発表】

情報通信審議会 情報通信技術分科会 衛星通信システム委員会（主査：井家上 哲史 明治大学 理工学部 教授）は、「非静止衛星を利用する移動衛星通信システムの技術的条件」のうち「衛星コンステレーションによる携帯電話向け 2GHz 帯非静止衛星通信システムの技術的条件」について衛星通信システム委員会報告（案）を取りまとめ、令和 6 年 9 月 3 日（火）から同年 10 月 2 日（水）までの間、意見募集を行っています。

詳細については [【令和 6 年 9 月 2 日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

航空・海上無線通信委員会報告（案）に対する意見募集
－ 「海上無線通信の技術的条件」のうち「X 帯沿岸監視用
レーダーの技術的条件」 －

【令和 6 年 9 月 3 日発表】

情報通信審議会 情報通信技術分科会 航空・海上無線通信委員会（主査 小瀬木 滋 一般財団法人航空保安無線システム協会 技術顧問）は、平成 2 年 4 月 23 日付け電気通信技術審議会諮問第 50 号「海上無線通信設備の技術的条件」のうち「X 帯沿岸監視用レーダーの技術的条件」について検討を行ってきました。

この度、検討結果を航空・海上無線通信委員会報告（案）として取りまとめ、令和 6 年 9 月 4 日（水）から同年 10 月 4 日（金）までの間、意見募集を行っています。

詳細については [【令和 6 年 9 月 3 日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

《 DX 推進に必須、IoT・AI エンジニアのための MCPC 検定 》

「IoT システム技術検定・基礎」のご案内

● 目的

IoT システム構築・活用に関する基礎知識を中心に、その習熟度を検定することで、IoT システムに取り組む技術者の対応力の向上。

● 必要な知識レベル

IoT に関する基礎知識の理解。

● 適用可能な実務レベル

IoT 構成要素の基本的な用語を理解し、一般的な IoT 関連の書籍を読解できます。また、セミナーに参加可能な専門用語と基本的な構成データの流れ、蓄積分析がわかります。

● 認定

IoT に関する基礎知識を保持していることを認定します。

第 16 回

【実施日時】2024 年 5 月 24 日 (金) ~ 2024 年 9 月 23 日 (月)

【第 16 回募集期間】2024 年 9 月 16 日 (月) まで

第 17 回

【実施日時】2024 年 11 月 22 日 (金) ~ 2025 年 3 月 24 日 (月)

【募集期間】2024 年 11 月 15 日 (月) ~ 2025 年 3 月 17 日 (月)

【試験の方式・会場】CBT (コンピュータの画面上で出題・解答を行う試験方式)

全国 350 カ所

【受検料】13,750 円 (税込)

【受検案内の詳細と申し込み先】

https://www.mcpc-jp.org/iotkentei/kentei_msg_kiso/

【問い合わせ先】MCPC 検定事務局

E-mail : msec@mcpc-jp-org

Tel : 03-5401-1735 (平日 : 10:00-17:00)



公式テキスト

モバイル&IoTで飛躍する

MCPC

モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-12 長谷川グリーンビル2階
<https://www.mcpc-jp.org/>

検定・講習会のお問合せは



MCPC検定事務局 TEL:03-5401-1735
FAX:03-5401-1937
E-mail:msec@mcpc-jp.org

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 日土地ビル11階
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<https://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp